

沖縄・八重山諸島には、アオバセセリを含めた大型のセセリチョウが、台湾アオバセセリ、オキナフビロードセセリ、テツイロビロードセセリ、バナナセセリの 5 種いるのだが、いずれも簡単に会えるチョウではない。このなかでアオバセセリ的美しさとは程遠くて、なんでアオバなのと言いたくなる台湾アオバセセリはすでに記述している。テツイロビロードセセリは仲間川林道でシロノセンダングサに吸蜜飛来した個体をみているが撮影記録はなく、沖縄・八重山諸島訪問 16 回目の 10 月に、ようやくオキナフビロードセセリの画像記録が撮れた。

Sep. 20, 1997：西表島仲間川林道

午前中に一時を過ぎた林道でしばらく粘ってみるが、「竹盛旅館」に同宿している田中さんのいわれた通りでヤエヤマイチモンジの活動時刻は過ぎたらしい。ちょうど木陰のトゲのある厚手の植物葉上に止まったクロセセリを Video で狙うもいい絵としては捉えられず。偶然にもオキナフビロードセセリの産卵状況を目撃できてクロヨナという植物がマメ科といいながら結構な大木であることを知る。この木が陰を落とす地面すれすれにヒョイヒョイという感じで忙しく飛び回るヒカゲチョウをネットインすると、なんと後翅が傷んだシロオビヒカゲ。近くに竹藪がみられることで納得だが、蝶採集案内書に従って藪を叩いてみてもシロオビヒカゲは踊らず。ハブが恐いので深入りはしない。

Oct. 27, 2004：沖縄百名

この場所ではルリウラナミシジミとトガリチャバネセセリをネットインしただけの成果に終わり、「<sup>せーふあーう たき</sup>斎場 御嶽」までバスでの移動を考える。ただし、行きのバスの運ちゃんに乗り換えができると聞いてはいるが、バスの本数がどのていどなのかはまったくわからない。元の車道坂道へ戻ると、道路沿いのセンダングサの花でテングチョウやオキナフビロードセセリが蜜を吸っているのでカメラで迫る。

